

需給見誤り農水省謝罪

自民党 農業構造転換の議論へ

自民党は8日、東京・永田町で農業基本政策検討委員会（金子恭之委員長＝衆院・熊本）を開き、5日に首相官邸で開かれた「米の安定供給等実現関係閣僚会議」の検証結果を農水省が報告した。冒頭、農水省幹部が需給見通しの誤りについて全面的に謝罪する異例の開会となった。

検証結果の報告に先立って渡邊毅事務次官があいさつに立ち、「これまで農水省は“コメは足りている”と説明してきたが、需要の伸びが非常に大きく、見通しを誤ったことが明らかになった。この場を借りてお詫び申し上げる」と述べ、需給見通しの誤りを認めて謝罪した。

検証結果を説明する中で山口靖農産局長は、全国の卸売業者630社（年間500トン以上）から報告された精米搗精数量から推計した需要量（精米ベース）を玄米数量（歩留り減を加味）に換算した上で、需要量に対して生産量がどれだけ不足していたか試算を示した（下表参照）。

令和5／6年（5年7月～6年6月末）の推計精米需要量（表中⑥）635万トンから換算した推計玄米需要量（表中⑤）717万トンに対し、5年産の生産量661万玄米トン（表中⑧）は56万トン不足していた。なお5年産生産量は、7月基本指針で示した販売実績（表中⑦）に対して44万トン（約6%）少ない。

同様の試算によって6年産の生産量は、推計玄米需要量707万トンに対して28万トン（4%）不足している。指針の販売実績711万トンに対して32万トン（5%）少ない。

この結果、「生産量は需要量に対して不足し、民間在庫を取り崩して需要量に見合う供給量を確保せざるを得なかった」と結論づけた。その数量を5／6年で40～50万トン程度、（需要量比6～8%程度）、6／7年で20～30万トン程度（4～5%程度）と示した。

出席議員との質疑応答の中で山口局長は、需給見通しを誤った理由について「玄米ベースでみてきたことや、6月末の供給量と在庫量の差し引きで機械的に需要量を出してきたことに安住していた」と説明。推計の^{だじやく}情弱さを認めた。

また質疑では、「主食用米の増産」一辺倒となっている官邸や小泉進次郎農相からの発信についても山口局長は、「“需要に応じた生産”という路線は変わらない」と説明。また「需給見通しにはアローアンス（変動幅）よりも^{せいしう}精緻化が重要」との考えを示した。

自民党の上月良祐・農林部会長（参院・茨城）は、「米粉などの需要も広げる必要がある。党と政府がすり合わせしながら、現場で混乱しがちな農家とのコミュニケーションが重要」と指摘。

宮下一郎・総合農林政策調査会長（衆院・長野）は、「備蓄のあり方を抜本的に検証し、どう運用するか。増産が困難だからこそ農業構造転換の集中期間に向けた戦略を議論すべき」など課題を列挙し、新たなプロジェクトチームを組織して対応していく考えを示した。

5 年産・6 年産の生産量・需要量（推計値）

		4/5 年 (価格高騰前)	5/6 年	6/7 年
搗精数量の推移	投入量(玄米万 t) ①	340	353	348 (330)
	精米歩留り ②	<7-8 月> 90.3% (3 年産) <9-6 月> 90.0% (4 年産)	<7-8 月> 90.0% (4 年産) <9-6 月> 88.6% (5 年産)	<7-8 月> 88.6% (5 年産) <9-6 月> 89.2% (6 年産)
	搗精数量(精米万 t) ③=①×②	306.2	313.5	309.7 (293.6)
精米歩留り を踏まえた 需要量推計	需要実績との比率 ④=①/⑦	0.492	—	—
	推計需要量(玄米万 t) ⑤=①/0.492	691	717	707
	推計需要量(精米万 t) ⑥=⑤×②	622	635	631
基本指針に 基づく 生産量・需要量	需要実績(玄米万 t) ⑦	691	705	711
	生産量(玄米万 t) ⑧	670	661	679
	不足量(推計需要差) ⑧-⑤	—	▲56	▲28
	不足量(需要実績差) ⑧-⑦	—	▲44	▲32
	期末在庫量(玄米万 t)	197	153 (在庫取崩し▲44)	121 (在庫取崩し▲32)

(注)

①「搗精数量の推移」は、年間取扱量 500t 以上の卸売業事業者 630 社が調査対象(うち 468 社から回答)。「6/7 年」のカッコ内は、備蓄米を除いた数量②「精米歩留りを踏まえた需要量推計」は、価格高騰前の令和 4 年産の搗精数量(需要に直結)と需要量の比率から 5 年産・6 年産の需要量を推計。